

女性医師支援センター便り



宮城県女性医師支援センター長
宮城県医師会常任理事

高橋克子

1) JCHO仙台病院意見交換会

昨年11月29日(水)午後6時にJCHO仙台病院を訪問しました。今まで市内基幹病院訪問は、東北労災病院、仙台オープン病院、国立病院機構仙台医療センター、仙台赤十字病院、仙台市立病院、中嶋病院を訪問しました。宮城県女性医師支援センターの活動や、その病院内での女性医師のお話、事務局からの「働き方」のお話、その後職員を含めてのディスカッションをしております。

JCHO仙台病院の全医師中女性医師は、約10%と少なめです。先日の宮城県女性医師支援センター及び宮城県医師会主催のイクボス特別賞個人の部に応募された先生がおられたのですが、受賞には至らず残念でした。宮城県女性医師支援センターの活動を私が説明しました。仙台医療センターの新妻さつき先生(委員)は「仙台医療センターの女性医師支援制度～この病院に貢献したい～」と題し、医師として新しい一歩を踏み出した時に、子供が生まれ生活が一変。夜泣きする子をいくらあやしたりしても何の評価も得られないという現実。しかし育児短時間正規雇用制度を利用し、自分としては十分に子育てに時間をかけられ、今は正規雇用となってフルタイムで働ける喜びがあると身振りを交え講演しました。この短時間正規雇用制度は子育て中の女性医師のみならず働く全女性にとって魅力的な制度です。最近この制度がいくつかの病院で利用されるようになり、また行政からの補助もありぜひ拡充したい制度です。

病院総務企画課課長の豊島氏からは、JCHO病院本部で進められている働き方について説明があり、男性も育休が取れ、たとえば予防接種、保育所の行事、子供の急な病気などの際に取れる休みがあると説明されました。知らなかった職員もあり、ためになったという感想も聞かれました。しかし医師は、年休消化も十分ではなく、まだまだ問題は深いようです。保育所は3歳児までと決められており、また探さなければならず、あまり人気



高橋克子先生



新妻さつき先生

NO PHOTO

豊島正志氏

なく定員割れしているということで、これは、本部が中央にある官公立病院に多い印象です。しかし、仙台医療センターは定員を超えても受け入れているのでやはりその病院の主体性というか意気込みの差であるかもしれません。このように、病院訪問の意見交換会はその病院の女性医師支援のみならず働き方改革に熱心かどうか、雰囲気がわかって大変有意義であります。病院にとってもあらためて「働き方」を考える機会になるのではないかと思います。

2) 日本医師会女性医師支援センター「北海道・東北ブロック会議」

昨年12月3日(日)盛岡市で開催されました。日本医師会常任理事の今村定臣先生のご挨拶に続き、日本医師会女性医師支援センター事業についての説明と日医総研の上家氏の「女性医師の勤務環境の現況に関する調査について」の報告がありました。これは8年ぶりのアンケート調査で、その変化が大変注目されると思います。



会場風景

7道県の取り組みについての報告があり、年々活動が活発になってきていると実感しました。北海道医師会の取り組みは、相談窓口、復職支援、医学生・若手医師へ

の取り組みも熱心で、今年度は新たに勤務医交流会(平成29年度全国医師会勤務医部会連絡協議会の翌日)を開催し活発な意見交換が行われたと、報告しました。

青森県医師会はワークライフバランス推進室と改名し「赤いりんご」というニュースターを出しています。医学生・研修医向けセミナーも毎年開催しております。

秋田県医師会は、平成29年1月9日「あきた医療人イクボス宣言」を高らかに宣言しました。イクボス10か条を制定しより具体的にその在り方を明示しております。また、病院訪問し意見交換をしており当県と似たような活動でした。

山形県医師会は女性医師支援のための特別な部門は持たず勤務医部会の事業項目として県の地域医療対策課と連携しているそうです。

岩手県医師会は女性医師部会と岩手医科大学との懇談会、県との協議会で専従の託児支援相談員の配置を要望、保育サポーターバンクの実現を切望しているということでした。

福島県医師会は、医学生・研修医向けセミナーの開催、「イクボス宣言」の作成、勤務環境に関するアンケート調査についての活動報告がありました。

宮城県医師会は、私がこれまでの活動を報告しました。県内および市内基幹病院訪問・意見交換会、セミナーの開催、イクボス大賞特別賞の表彰、医師を志す高校生のための講演会などをお話ししました。

2月に開催される日本医師会「北海道・東北ブロック会議」で発表する県は、これまでの実績も踏まえ、これからの活動が期待される医師会として、岩手県医師会と、山形県医師会の二つが選ばれた。

今村定臣日本医師会常任理事の閉会のご挨拶では、この会は大変熱気にあふれた活発な会で感心したとのご感想でした。このように、地域での活動が中央で報告され、それぞれがよいところを取り入れ、さらなる活動に結びつけられることが期待されます。